

テレワークの活用



ANA人事部 高野 弘樹

テレワークの導入・活用に向けて

テレワーク・デイズの取り組み

取組紹介：テレさとワーク

会社概況 (ANAグループ)

- 連結子会社 : 62社
- 資本金 : 3,187億円 (ANAHD)
- 総従業員数 : 43,466人
- 連結売上高 : 20,583億円
- 就航便数 : 国内線約 1,070便/日
国際線約 1,190便/週
- 輸送実績 : 旅客約 5,442万人/年
(国内 4,433万人、国際 1,009万人)
- 機材数 : 304機 (2019年3月末現在)

B767



B777



B787



B737



Q400



A320/321



A380



グループ経営理念

安心と信頼を基礎に
世界をつなぐ心の翼で
夢にあふれる未来に貢献します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、
お客様満足と価値創造で
世界のリーディングエアライングループを目指します

ANA's Way（グループ行動指針）

私たちは「**あんしん、あったか、あかるく元気！**」に、次のように行動します。

- 1 安全 安全こそ経営の基盤、守り続けます。
- 2 お客様視点 常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
- 3 社会への責任 誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
- 4 チームスピリット 多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
- 5 努力と挑戦 グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

会社概況 (ANA人員：働き方別)

日勤スタッフ
(フレックス)



16%

14%



運航乗務員

21%

シフト勤務スタッフ



49%



客室乗務員

導入・活用に向けて

2012年度～ モバイルワークを展開

2012年4月

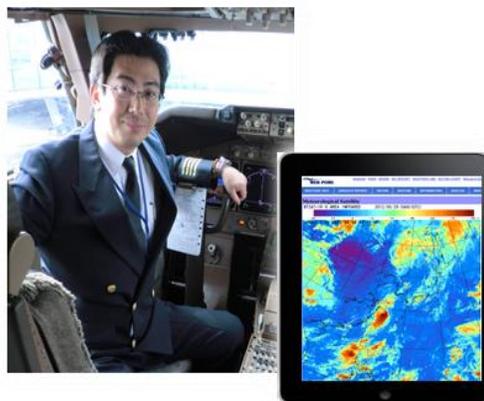
客室乗務員
(iPad)



- ・数分で最新に改訂
- ・教育訓練のセルフ化
- ・動画・音声の活用による
新たな教育スタイル

2013年2月

パイロット
(iPad)



- ・情報収集のセルフ化
- ・教育訓練のセルフ化
- ・搭載燃料の適正化

2013年4月

整備士
(iPad)



- ・情報伝達の効率化
- ・専門スタッフによる遠隔サポート
- ・意思決定の迅速化

2014年11月

空港係員
(iPad)



- ・情報伝達の効率化
- ・教育訓練のセルフ化
- ・意思決定の迅速化

<第1弾> 環境面

いつでも、どこでも働くことができる環境（IT・設備）を整備

2012年度～ 順次展開

2012年11月

電子文書システム
+電子稟議



- ・情報収集のセルフ化
- ・教育訓練のセルフ化
- ・搭載燃料の適正化

2013年3月

クラウド型メール
サービスの導入



- ・メール管理の効率化（外出先で確認、大容量、一元管理）
- ・他部署間での容易な情報共有
- ・共同編集で資料作成を迅速化

2013年6月

仮想デスクトップ
+社内WiFi



- ・外出先でも資料作成でき、在宅勤務、直行直帰が可能
- ・BYODの導入
- ・交通費、移設費の削減

2014年3月

クラウド型ボイス
コミュニケーション
(iPhone)



- ・外出先でも電話対応
- ・通信コストの削減
- ・セルフマネジメント強化
- ・ユニファイドが可能に

＜第2弾＞ 制度面（勤務制度）

いつでも、どこでも働くことができるしくみ・制度を整備

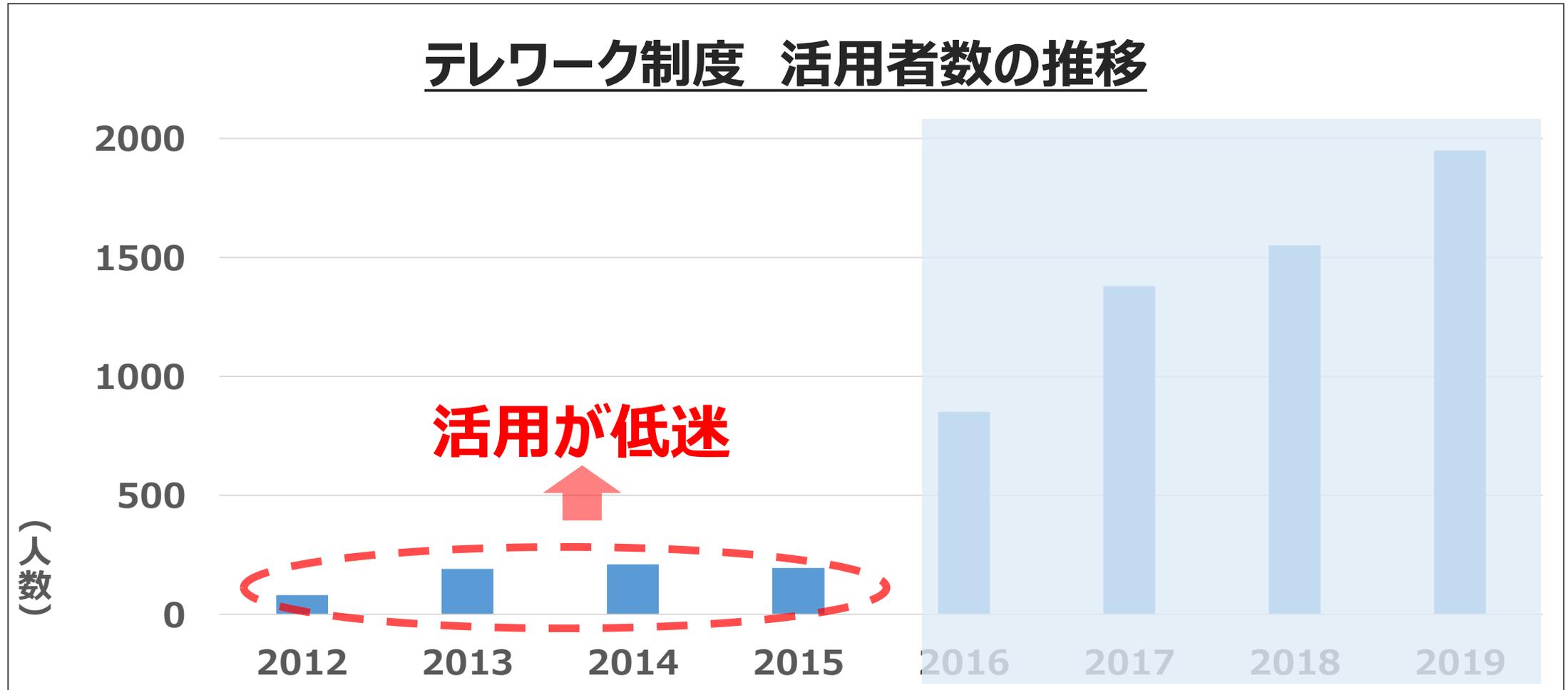
1. スーパーフレックスの拡大

- ・「コアタイムなし」フレックスの活用促進
- ・ほぼ全部署がフレックスタイム制度導入

2. テレワーク制度導入（2012年度当時）

- ・当初は、「育児・介護」をする社員を主なターゲットに導入
- ・育児以外の事由でも活用可
- ・自宅のみ利用を認める

制度導入後の数年間は、活用者が全体の「1割」程度の時期が続いた



改善に向けた取り組み（2015年度）

1. 「テレワークを活用し何をしたいのか」を明確に社員に説明
 - ①全社内アンケート + トライアル
 - ②目的の明確化
 - ③全事業所で意見交換会
2. 所属長・管理職によるテレワークの活用促進（率先垂範）
 - ①全ての所属長との話込み
 - ②所属長と部下のコミュニケーション
3. 経営TOPの想いを共有

改善に向けた取り組み（2015年度）

1. 目的（当時整理した内容）

《STEP1》

- ① ワークライフバランスの促進
- ② 育児・介護を担う社員の就労継続支援
- ③ 自立・自律した人財の育成

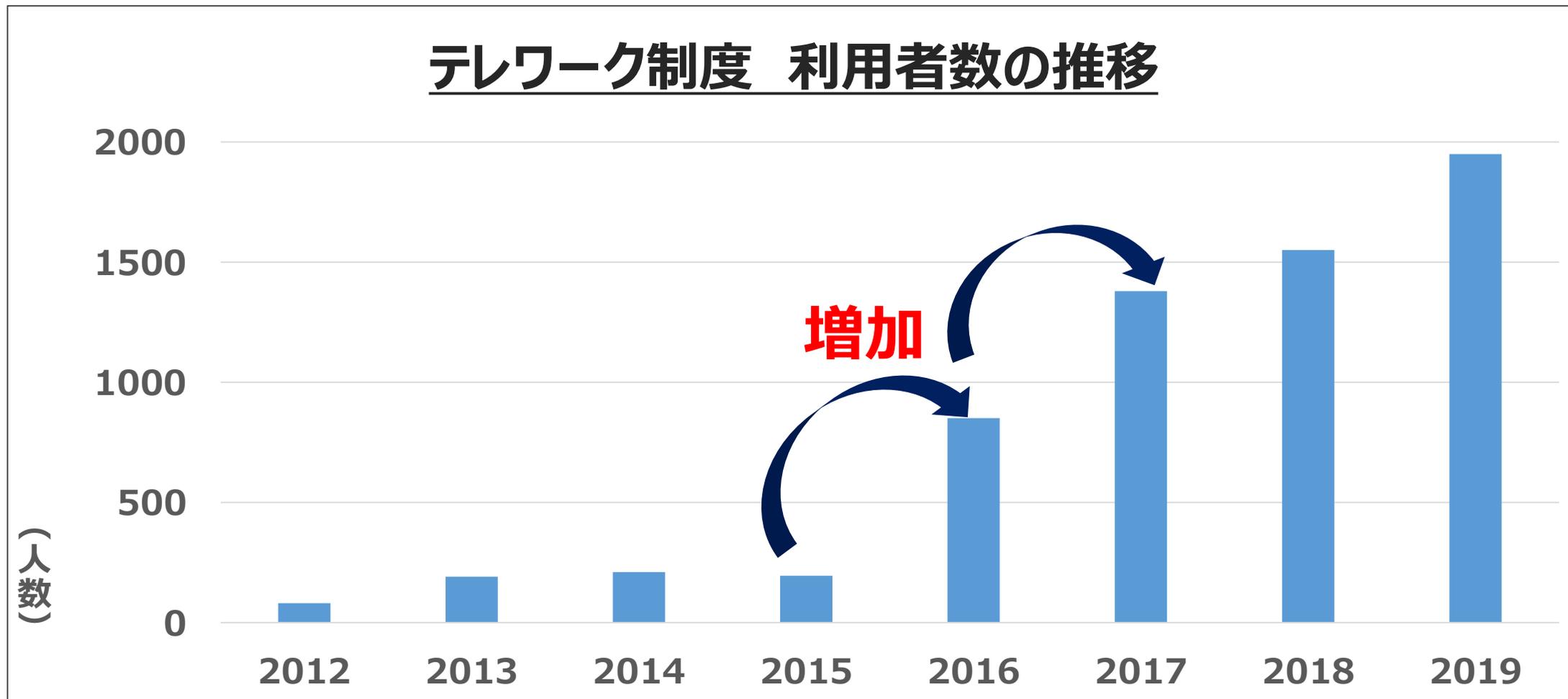
《STEP2》

- ① 管理ではなく「信頼関係」をベースとした人間関係の構築
- ② 生産性向上、無駄の排除

2. テレワーク制度概要（当時見直した内容）

- ① テレワークの活用回数：各部署で設定（制度上の上限なし）
- ② 休憩時間以外で、勤務を中断し、育児・家事などを実施可

2016年度以降は活用者が増加し、現在は「75%」が活用



新テレワーク制度導入

テレワーク・デイズ (取組紹介)

1. 「サマーワークスタイル」 (テレワーク・デイズ≒サマーワークスタイルとして実施)



自分

一人ひとりがイキイキと



家族

家族とともに

チーム

皆でつながる



一人ひとりが生き生きと働く

仕事と生活の質を高める

2. 「サマーワークスタイル」の取り組み・成果



テレさとワーク (取組紹介)

1. 「テレさとワーク」とは？

目的

帰省先が遠方である社員も、年末年始やお盆にふるさとに帰省し、家族・親族と余暇を過ごすことができる環境を整備することで、ワークとライフの質の向上を促進する

いつ

年末年始・お盆の**前後**に

どこで

ふるさと（本人・配偶者の実家）で

何を

テレワークする

↳ 「テレさとワーク」と称し、推奨中

2. 「テレさとワーク」の背景

社員の声

帰省先が遠いのでなかなか帰れない…

帰省してもすぐに帰らないと…

久々に地元の親戚、友人とゆっくり話したい…

年末年始は、飛行機も電車も混んでいて、
移動だけで疲れる…

2～3日早く帰省しテレワークを活用することで解決できるのでは…

取組紹介：「テレさとワーク」

いつもの休暇

休暇の前日まで会社に出社



連休前日まで会社で仕事してたから
帰省ラッシュに巻き込まれちゃった。

滞在期間が短いとゆっくりできない

もう帰っちゃうの??



ゆっくりしたいけど
滞在期間が短いから
すぐに帰らなくちゃ。

慌ただしく休暇が終わる..



慌ただしくて疲れた...
もう来年は帰るのやめようかな。

テレワークを活用したゆったり休暇

テレワークを活用して実家で仕事



テレワークならどこでも
仕事ができるから、
帰省ラッシュの前に実家に帰ったよ。

滞在期間が長いとゆっくりできる

滞在期間が増えるとゆっくりできて
楽しい時間も増えるね。



そのまま
休暇に!

充実した休暇で気分リフレッシュ!!



テレワークを有効活用して
連休をゆっくと満喫できた!
元気に仕事もがんばろう!

2. 「テレさとワーク」推奨に向けた考察

少し早めに帰省するだけ！

～趣旨が明確～

社員のニーズをテレワークで解決！

～テレワークのさらなる可能性～



一人ひとりの環境に応じた活用！

～ダイバーシティ&インクルージョン推進～

心身ともにリフレッシュ！

～健康経営の推進～

3. 「テレさとワーク」の活用事例・実績

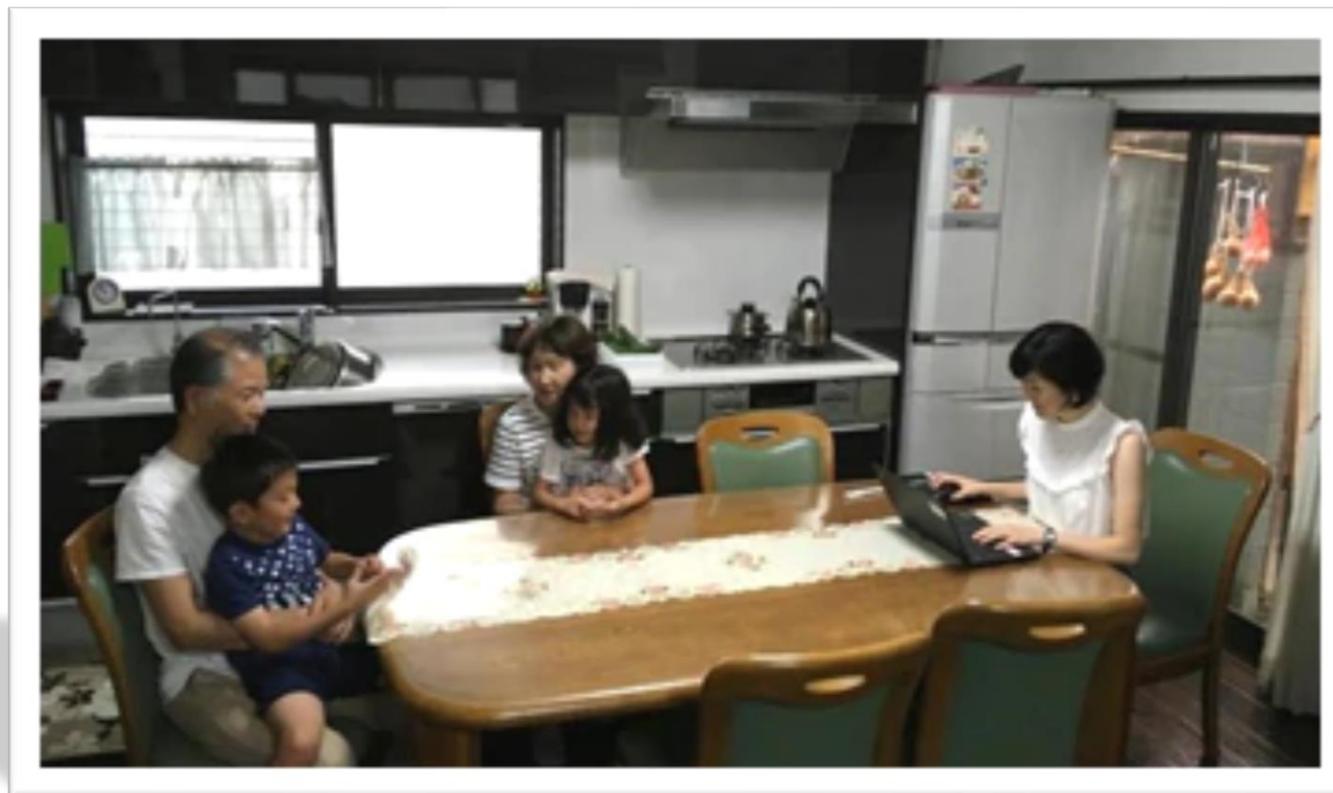
■ 年末年始のケース（2018年12月～2019年1月）

- ・12/26～28に帰省先でテレワーク（テレさとワーク）した場合、帰省先に**9日間滞在**することができる

※1/4に有休を取れば、最大12日間滞在可能

日	月	火	水	木	金	土	
12/23	12/24	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	
			テレさとワーク			休	
			帰省先				
12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5	
休	休	休	休	休			
帰省先							

3. 「テレさとワーク」の活用事例・実績



《活用実績》

第1回：約50名 (2018年12月25日～2019年1月7日)
第2回：約100名 (2019年7月29日～8月30日)

4. 社員の声の変化

社員の声(以前)

帰省先が遠く、なかなか帰れない…

帰省しても、数日しか滞在できず
慌ただしく戻ってくることに…

久々に地元の従弟や友人と
ゆっくり話したい…

年末年始は、公共交通機関が
混んでいて、移動だけで疲れる…

テレさとワーク

社員の声(現在)

リフレッシュし鋭気を養った

親や従弟とたくさん話せた

田舎でゆっくりし、自分を見つめ直す機会になった

混雑を避けて
帰省できるようになった

次回も活用し帰省したい

地元で〇〇体験会に
参加してみた

5. テレさとワークの可能性

社員の声(現在)

リフレッシュし鋭気を養った

親や従弟とたくさん話せた

田舎でゆっくりし、自分を見つめ直す機会になった

混雑を避けて
帰省できるようになった

次回も活用し帰省したい

地元で〇〇体験会に
参加してみた

今後の可能性

- ①ワークとライフの質の向上
- ②ファミリーフレンドリー（家族の絆）
- ③エンゲージメント向上
- ④ストレスフリーな移動の実現
- ⑤公共交通機関の混雑緩和
- ⑥帰省者増に伴う地域活性化
- ⑦地方創生



Inspiration of JAPAN